

社会福祉法人 大和まほろば福祉会
戸塚せせらぎ保育園 様

平成30年度 福祉サービス第三者評価結果

1. 基本情報
2. 横浜市福祉サービス第三者評価結果（総括）
3. 横浜市福祉サービス第三者評価結果
4. 利用者本人調査結果
5. 利用者アンケートの特徴
6. 利用者アンケート調査結果
7. 事業者コメント

福祉サービス第三者評価機関
株式会社R-CORPORATION



基本情報

施設名	戸塚せせらぎ保育園
所在地	横浜市戸塚区矢部町 3001-2 第 7 山洋ビル 1 階
電話番号	045-443-6976
評価年度	平成 30 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

評価方法

自己評価	
(実施期間) 平成 30 年 11 月 1 日～ 平成 30 年 11 月 30 日	職員一人ひとりが評価後→主任・園長で確認し、最終的なまとめを行う(評価方法)
評価調査員による評価	
(実施期間) 平成 31 年 1 月 8 日 平成 31 年 1 月 9 日	評価調査者 2 名が、2 日間を通し、保育園内の視察、保育内容、園児の観察、書類確認および園長、職員との面接、ヒアリングにより評価を行いました。乳児、幼児の食事の観察を行い、保育環境、子どもの遊びの様子および延長保育の観察を実施しました。
利用者家族アンケート	
(実施期間) 平成 30 年 11 月 27 日～ 平成 30 年 12 月 11 日	アンケートを家庭数ごとに配付し、郵便ポストに投函してもらう。
利用者本人調査	
(実施期間) 平成 31 年 1 月 8 日 平成 31 年 1 月 9 日	0 歳～5 歳児対象に 1 日の生活を通して観察を行い 3 歳児クラスと散歩に同行し、園生活、食事、遊び等を場面観察から考察をまとめました。

横浜市福祉サービス第三者評価結果

＜総括＞

対象事業所名	戸塚せせらぎ保育園
経営主体(法人等)	社会福祉法人 大和まほろば福祉会
対象サービス	保育所
事業所住所等	横浜市戸塚区矢部町 3001-2 第7山洋ビル 1階
設立年月日	平成28年4月1日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版

＜総合評価＞

【戸塚せせらぎ保育園の立地・概要】

●戸塚せせらぎ保育園は、JR戸塚駅東口から徒歩4分、駅近に位置し、旧国道1号線沿いの商住地に位置する6階建てマンション（第7山洋ビル）の1、2階を占有園舎としています。園が位置する戸塚区は、豊かな自然を残しつつ、再開発によって生活の利便性を高め、大きな公園も複数あり、子育て支援にも積極的なエリアです。駅周辺は大型商業施設があり、駅から少し離れると畑や柏尾川の土手沿いの桜等、緑豊かな環境に恵まれ、都会の便利さと自然のバランスを保っています。また、交通の便も良く、横浜にはJR東海道線で1駅、鎌倉へはJR横須賀線で3駅であり、市営地下鉄も利用でき、JR東海道本線やJR湘南新宿ラインを利用すれば、新宿・渋谷・品川・東京等の主要な駅に1本でアクセスできるのも大変便利です。保育園を利用する保護者にとっては利便性の高さと共に落ち着いた環境を備えた地域です。

●戸塚せせらぎ保育園の運営主体は、社会福祉法人大和まほろば福祉会であり、設置主体は「あいの里せせらぎ保育園」（札幌市北区）です。園は、平成28年4月に開設され、3年目を迎える保育園です。法人理念に「自分の力で自分の人生を切り拓き 人として自立し世のため人のために 尽くす人を育てる。」を掲げ、法人理念に沿って保育教育理念、保育目標を定めています。戸塚せせらぎ保育園では、「職員の想い」として、「子どもにとって保護者の皆様にとって『第二の家』の存在になるようにします。」「我が子のように愛情を持って接します。」「自分のことは自分で出来る子、転んだら自分の力で立ち上がれる子…」の3つを明示し、常に職員が子どもたちを守る立場で子どもたちに強い心と、感謝の気持ちが持てるよう教育と育成に愛情を持って取り組んでいます。「えんだより」では、各組の保育士の言葉が掲載され、各保育士を身近に感じられるよう工夫されています。さらに、「善悪の区別」と「大切な生き方」を示し、子どもの自立心を育てています。

●園内は通りに沿って南向きに保育室が設けられ、陽当りは良好です。園入口へは階段と建物に沿ってスロープの2ルートがあり、バリアフリー設計となっています。また、約40坪の砂地の園庭を有し、固定遊具は設置せずに子どものかけっこ、ボール遊び等で自由に活発に体を動かすことを重視して保育を進めています。戸塚せせらぎ保育園の子どもたちは保育士の温かい見守りの下、のびのびと元気いっぱいに園生活を楽しんでいます。

【戸塚せせらぎ保育園の方針】

●戸塚せせらぎ保育園は、法人理念に「自分の力で人生を切り拓き 人として自立し 世のため人のために 尽くす人を育てる」と謳い、保育目標に、①「こどもの可能性を引き伸ばし育てる。」、②「人間としての基本を身につける。」、③「転んだら自分の力で起きあがる。」、④「失敗をたくさん経験する。やればできる自信を育てる。」を掲げ、明るい人間関係を築き、素直な心持ち、物事の道理と責任をわきまえた人としての基本を身につけることを目指しています。戸塚せせらぎ保育園では、子どもの将来を見据えた人間形成に力を注ぎ、生きる力を蓄え、子どもの先を見た保育活動に取り組んでいます。日常生活、活動の1つ1つから理念に沿った教育・保育が実践されていることが確認でき、子どもたちも基本的習慣がきちんと身に付き、場面ごとにメリハリとわきまえを備え、すくすくと健全に育まれています。

《優れている点》

1. 【向き合う保育・自立への援助】

●保育教育理念・保育目標の具現化への取り組みでは、保育教育理念・保育目標に沿い、6か月未満児から6歳児まで年齢別に、「健康（身体機能・運動）」、「人間関係（礼儀・礼節）」、「環境」、「言葉」、「表現」の項目を設け、ねらいと取り組み内容を明示し、各項目を基に年間指導計画、月間指導計画（0歳児～1歳児は個別指導計画）を作成しています。非常勤職員を含め、全職員で子どもの「今」を見つめ、人間形成の基礎作りへの支援の在り方について、各種会議（職員会議、乳児会議、幼児会議、保育会議、食育会議）等で検討を図り、子どもたちと過ごす「今」を大切に保育に当たっています。さらに、登降園時の挨拶、衣服の着脱、食事、排泄の基本的習慣や、スポーツ（体操）を始めとした様々な生活場でチャレンジをしていく精神を養い、上手くできたら褒め称え、子ども、保護者と共に喜び、子どもの自信につなげ、自立心を培っています。

2. 【子どもが遊びこめる環境作り】

●戸塚せせらぎ保育園では、園庭に固定遊具の設置をしていませんが、子どもたちはかけっこや、玩具収納棚から自分の好みのボールを取り出してボール蹴りやボール投げをして体を動かして遊び、また、お茶碗・お皿や、スコップ、バケツ等を園庭に広げて、子どもの自由発想で楽しみながら遊びの展開ができています。保育室内では、テーブルや椅子を片付け、仲良しの友だちとブロック遊びや、絵本を取り出して夢中になって本読みをする子ども、ままごとセットを使ってお店屋さんごっこをして遊ぶ子どもたち等、様々な場面で子ども同士でルールを作り、互いに思いやりを持ちながら遊びを楽しんでいる姿が見られます。室内・室外遊び共に子どもを主体とした遊び込める環境作りを設定し、職員は子ども中心にサポートに徹しています。

3. 【職員の資質向上への取り組み】

●戸塚せせらぎ保育園は、人材育成の目標管理を実施し、職員自身が現立場に立ち日々、必要課題を職務遂行の中で振り返り、職員一人ひとりで「考え」、園長とのミーティングで個々の取り組み課題を設定しています。また、経験値の浅い職員の教育に力を入れ、園長、主任、先輩職員の指導・助言を受けながら中間、期末に目標達成度の評価を行い、今後の課題を明確にし、課題解決に向けた的確な研修参加計画を立案して資質向上を図っています。職員は、園内研修、新人OJT、外部研修、法人系列園合同研修等に積極的に参加し、受講後は規定に則って研修報告を行い、全職員で共有を図り、技術向上・知識を深め、職員

一人ひとりのスキルアップにつなげています。

《さらなる期待がされる点》

1. 【目指す保育活動の理解について】

●戸塚せせらぎ保育園が目指す、「子どもの可能性を引き伸ばして育てる。」「人間としての基本を身につける。」等の他、保育教育理念に謳っている項目の取り組みを、スポーツ（体操）等を通じて子ども自身のチャレンジから自立心を推進し、「律することが安全の全てに通じる」スポーツ指導での教えや、一人ひとりに愛情を込めた育みを日々の保育に実践しています。また、設定保育と自由遊びのバランスや、子ども自身が順応して個々にメリハリを持って園生活を楽しんでいること等、保護者に正しく理解がされていないと感じられる傾向が利用者アンケートから見受けられます。戸塚せせらぎ保育園の保育活動の実態を今一度、保護者への理解を促し、懇談会の設定による取り組みの周知等、子ども・保護者・園で喜びの共有となるよう一層の努力を望みます。

2. 【地域子育て支援について】

●戸塚せせらぎ保育園では、一時保育や育児相談の子育て支援事業は実施していませんが、地域の保育園が協働で行う交流保育を行い、また、地域住民に対して子育てや保育に関する講習・研修会の1つとして「幼児教育コンサルティング」を実施しています。継続して地域の子育てニーズの把握と共に、育児相談に関する職員個々の必要スキル向上も含め、取り組みに向けて話し合い、園での育児相談の開催等、地域に根ざした保育園として子育て支援活動のさらなる活躍を期待しています。

横浜市福祉サービス第三者評価結果

戸塚せせらぎ保育園	
評価年度	平成 30 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

<評価領域>

I	利用者本人（子ども本人）の尊重	II	サービスの実施内容	III	地域支援機能
IV	開かれた運営	V	人材育成・援助技術の向上	VI	経営管理

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類 1 - 1	保育方針の共通理解と保育計画等の作成
評価	

評価の理由（コメント）

- 保育教育理念を「自分の力で自分の人生を切り拓き 人として自立し 世のため人のため尽くす人を育てる」、と謳い、保育目標に「子どもの可能性を引出し伸ばす」、「人間として基本を身につける」とし、子どもの生まれながらにして持っている能力を引き出す保育を実践しています。また、「明るい人間関係を築く⇔素直な心が育つ⇔物事の道理と責任が養われる⇔明るい人間関係を築く」のサイクルを日々身につけることを目指し、全職員が共通認識を持ち、子ども一人ひとりに合った環境を見つけ出し、子どもが楽しく取り組めるよう保育に当たっています。保育教育理念・保育目標については、見学等に来園した保護者に「何の為に体操をするのか」を十分説明を行っています。園の方針は職員室、保護者の目に留まるようにところに掲示して理解を促しています。
- 園では全体的な計画を新保育所保育指針に沿い、従来の5領域（心身の健康、人間関係、環境、言葉、表現）に幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を加え、今年度は従来の保育課程を踏襲し、来年度に向けて新全体的な計画に移行して行く予定です。いずれの計画も子どもの最善の利益を第一義として策定していることには変わりはありません。全体的な計画は各クラスに掲示し、保護者が確認できるようにしています。
- 年間指導計画は、全体的な計画に基づいて年齢別に策定し、さらに月案、週案に展開して実施しています。保護者へは、入園時や各年度当初に保育教育理念、保育目標、保育課程、年間指導計画、年間予定表等の説明を行い、特に、年間予定表に変更等があった場合には都度、保護者へ連絡しています。話の分かる子どものクラスでは週案レベルでの予定とねらいを話しています。子どもの要望等については、話の分かる子どもからは直接聞き、話の分からない子どもの場合は態度や表情等から意思を汲み取り、保育に反映させています。子どもの意思を指導計画の見直しにも生かし、子どもの自主性や主体性を育み、発揮できるような指導計画としています。

評価分類 1 - 2	子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施
評価	

評価の理由（コメント）

- 入園前（2/下旬～3/中旬）に入園説明会を実施し、事前に、保護者に子どもの生育歴や家庭事情等を記入してもらい、保護者に子どもと一緒に参加してもらい、入園に向けた説明を行い、保護者の面接中に子どもの様子も観察しています。提出書類と面接時の聴き取り記録を併せて個別ファイルに保管しています。個別ファイル等は鍵付きのロッカーに保管し、必要に応じて職員が閲覧できるようにし、日々の保育に活用しています。
- 新入児受け入れに際しては、短縮保育（慣らし保育）を実施しています。慣らし保育は、保護者の仕事復帰までと考え、概ね5日以内に留めていますが、子どもの状況や保護者の就労状況に応じて相談し、柔軟に対応しています。0歳、1歳児の新入園児に対しては、個々の個別指導計画を立て、月ごとに交代で主担当保育者を決めて対応しています。在園児に対する配慮では、1歳～2歳児の進級に当たっては、最低1名の保育士を持ち上げ、不安軽減に配慮しています。保護者との連絡は、連絡ノートを通して連携を図り、登降園時にも口頭で子どもの様子を伝えるよう心がけています。複数の担任を配置しているクラスでは、4月から子どもの登園時に担任が保護者と直接話せるよう環境作りに配慮しています。
- 指導計画は、子どもの発達状況に応じて毎月、クラス会議、乳児会議、保育会議等にて関係職員間で意見交換・見直しを図り、次月の月案に反映させています。クラス担任と関係職員によって協議した評価・改定結果は、昼礼時に職員間で共有し、保育につなげています。離乳食やトイレトレーニング等に関しては、保護者と連携し、保護者の意見を汲み、個別に対応するようにしています。
- 乳児保育（0歳児）においては、適切な環境を整備して応答的な関わりを心がけ、一人ひとりの生理的・心理的欲求を満たし、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かせるよう環境を整え、玩具や絵本等に興味や好奇心が育つよう、保護者と連携を図りながら保育を進めています。
- 1歳児以上3歳児未満の保育においては、応答的な対応、子どもに合わせた対応、走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張る等、全身を使う遊びが楽しめる対応を心がけ、探索活動しやすい環境作りに努め、友達との関わりを仲立ちしながら保育を進めています。
- 3歳以上児の保育においては、3歳児は集団の中で安定して遊びを中心とした興味・関心のある活動を取り入れ、4歳児は集団の中で自分の力を発揮し、友達と共に楽しめるよう遊びや活動を進め、5歳児は集団の中で一人ひとりの個性が生かされ、友達と協力して一つのことをやり遂げるような遊びや活動を目指しています。色々な遊びの中で十分に体を動かし、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を念頭に、遊びの中で環境を整え、必要な援助を行う保育を心がけています。

評価分類 1 - 3	快適な施設環境の確保
評価	

評価の理由（コメント）

- 園内外は清潔に保たれています。園内外の清掃は、職員と子どもと一緒に当番を決めて実施し、玄関入口は直ぐ公道になっていますが、職員は登園前に目に付くゴミを拾い、子どもたちが気持ち良く登園できるよう配慮しています。各保育室は、職員と子どもでほうきとちり取りを用いて掃除を行い、階段、廊下共に清潔に保たれています。保育室は、南南東に窓が設けられ、陽が入って明るく、午睡時はカーテンで調整しています。また、各保育室に温・湿度計を設置して目標値を明記して管理を行い、日誌にも記録し、快適な環境を提供しています。保育中の音・声については、3歳～4歳児の保育室で歌の練習がありましたが、他のクラスへの妨げとなっていないことを確認しました。また、近隣への配慮も心がけています。
- 1階には乳児用の、温水シャワーを備えた沐浴室が設備され、2階の幼児用トイレにも温水シャワーが設置されています。水回り付近は使用后、「衛生・消毒マニュアル」に従って清掃・消毒を行い、掃除担当者はシフトに沿って定め、実施しています。
- 0歳児と1歳児の保育室は、大きな保育室内にベビーサークルと低い棚で仕切って0歳児室を設け、0歳、1歳児共に小集団保育が行えるよう工夫し、玩具等を置いています。寝食は場所を区別し、子どもが安心して午睡ができるよう配慮しています。2歳児や、個別対応の3歳児も1歳児と一緒に午睡を行っています。この園では3歳児以上は午睡を行っていません。

評価分類 1 - 4	一人ひとりの子どもに個別に対応する努力
評価	

評価の理由（コメント）

- 園では、0歳～5歳児の年間・月間指導計画を策定し、3歳未満児や幼児での特別に配慮を必要とする子どもについては個別の指導計画を作成しています。計画は、各クラスの担任間で共有を図り、各クラスの個別の指導計画は毎日の昼礼や、保育会議で振り返りを行い、子どもの発達状況に合わせて適切な支援につなげています。保護者には、クラス便りにクラスの年間の狙い、目標を記載してお知らせすると共に、日々の様子は連絡ノート等で伝え、共有を図っています。個別指導計画の内、トイレトレーニング、手洗い、箸の使い方等の重要部分についての変更については保護者に説明し、同意を得た上で実施するようにしています。
- 子どもの個別の状況、家庭の個別状況等の記録は、所定の書式（児童育成表、健康台帳、個人表等）に記録し、全職員で共有を図り、記録内容、個別ファイルは錠付き保管庫に保管し、管理しています。子どもの個人別成長発達の様子の記録はパソコン内で時期に応じて記録・保存を行い、1年間の記録は1年分をプリントアウトして年別にファイルしています。進級時には、重要申し送り事項が記録された個別ファイルを基に、次年度の担当職員に引き継ぎ、継続して新年度の子ども・保護者への対応に生かしています。5歳児については保育所児童保育要録を作成し、就学先の小学校に送付しています。

評価分類 1 - 5	保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み
評価	

評価の理由（コメント）

- 特に配慮を要する子どもについては、個別指導計画を策定し、毎日のクラスミーティングで話し合い、記録を基に保育会議で検討を図り、全職員に周知するようにしています。職員は、内部研修、外部研修に参加して得た要配慮児保育に関する最新情報を報告し合い、職員間で共有し、研鑽を図っています。また、横浜市戸塚地域療育センターの指導を受け、研修報告と共にファイルし、いつでも確認できるようにして実践に生かしています。
- 障害児保育のための環境整備では、玄関の出入り口迄にスロープを設備し、園内にエレベーター、障害者用トイレの設置、室内はバリアフリーを施し、障害児受け入れの環境を整えています。指導計画では、子どもの障害に沿った個別指導計画を策定し、横浜市戸塚地域療育センターと連携を図り、年2回の巡回等を受け、助言が得られる体制を構築しています。園では、統合保育を実施し、保育目標に沿って他児と共に、自らの力の可能性を見出し、共に育ち合うことを大切にした保育に取り組んでいます。
- 虐待の定義については、「虐待防止マニュアル」に記載があり、マニュアルに基づき、職員は成すべき行動と対応法を周知および、認識し理解しています。虐待の早期発見では、朝の受け入れ時や着替えの際の視診を心がけ、様子を察知して職員による見守りや、気になる子ども、保護者とのコミュニケーションに努め、虐待の未然防止に努めています。虐待が疑われる場合は、先ず主任、園長に報告し、子ども・保護者の生活環境の変化に留意し、関係機関と連携を図り、虐待防止に努めています。虐待が明らかになった場合は、戸塚区の保健師、横浜児童相談所、警察等に通告・連絡・相談の態勢を整えています。
- アレルギー児への対応については、マニュアルがあり、マニュアルに沿った食物アレルギーについての必要知識の研修を実施し、かかりつけ医の指示を受けて対応しています。保護者と連携を図り、生活管理指導票にアレルギーの種類を記し、情報はクラス職員間で共有しています。給食時は、トレイを色分けし、専用食器を用い、アレルギー食品名を明示した食札を貼り、厨房内、調理と保育士、保育室内でトリプルチェックを行い、誤飲・誤食防止を徹底しています。除去食対応の管理は、栄養士、調理師、各乳・幼児担当保育士で連携して対応しています。
- 文化が異なる子どもへの対応は、文化や生活習慣、表現、食事、考え方の違いについて理解し、違いを認めて尊重するようにしています。現在、1名在籍し、対応に問題はありませんが、今後、様々な状況を想定して絵や写真、実物で示す対応方法等を準備しています。外国籍の保護者については、コミュニケーションを大切に、連絡ノートや配付物等の文章にルビを振り、ひらがなで伝える等、意思疎通を図るよう工夫を考えています。

評価分類 1 - 6	苦情解決体制
評価	

評価の理由（コメント）

- 保護者からの苦情等に関しては、入園時に入園のしおりに沿って説明を行い、苦情・意見・要望等には適切に対処する仕組みを整え、担任および、どの職員でも意見を伺うことを伝えています。また、苦情相談窓口、受け付け担当者、解決担当者の氏名を明示し、第三者委員も定めて、対応する仕組みを整えています。
- 保護者から苦情・要望の聴き取りについては、クラス懇談会や保育参観、園行事後のアンケート等で要望や意見を把握し、受けた意見等は、速やかに職員会議で解決策を検討し、当該保護者等に回答を示しています。過去の苦情やトラブル（連絡ノートでの内容や直接保護者から受けた内応等含む）の検討および対処の結果は、詳細を記録し、保存して再発防止に生かしています。

評価領域Ⅱ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類Ⅱ - 1	保育内容〔遊び〕
評価	

評価の理由（コメント）

- 子どもが自発的に活動できるよう、園庭では玩具棚の籠にスコップ、バケツ、ボールや、砂遊びができる玩具、外遊びの用具類を整え、子どもが自由に使えるようにしています。保育室内では、収納棚に色々な種類のブロック、絵本、幼児向けの布製の抱き人形や、ままごとセット等を備え、保育士が床上に取り出して自由時間に提供しています。また、自由画帳、絵の具、折り紙等も揃え、自由に使って遊べるようにしています。戸塚せせらぎ保育園では、自由遊びの時間は午睡後（おやつ、歯磨きの後）に確保し、設定保育での時間とのバランスを図りながら保育に当たっています。2歳児以上は午前に散歩を兼ね「かけっこ」（トレーニング）の時間を取り入れる等、体を動かして遊ぶが園の特徴になっています。子どもが遊びに集中できる環境作りでは、テーブルでコーナーを作り、友達同士で「ごっこ遊び」等を行ったり、床にブロックを長くつなげてレールを作り、ブロックで作った電車（ロケット）を滑らせて創造を膨らませて集中して遊んだり、個々の発想から遊びを展開しています。好きなことをして遊び始める時間は月案で決まっており、その時間を大切にしています。
- 一斉活動として、自由遊びを中心にカリキュラムを作成し、年齢に応じた集団遊びができるようにしています。特に、「読み・書き」・「体操」・「音楽」に力を入れています。「音楽」では、朝の会・帰りの会で国家の「君が代」を斉唱し、童謡をみんなで歌い、リズム遊びや、ピアノの演奏等を行い、みんなで一緒に行うことの大切さを学んでいます。また、園の特徴である「体操」では、子どもたちは高度な身体能力を発揮し、カエルジャンプ、壁逆立ち、手踏み、横歩き、縦歩き、逆立ち歩き等を習い、順次、目標に向かって技量の習得に進み、「アザラシ回転」ができるまでチャレンジしています。子どもの健やかな体作り、感覚を身に付ける運動によりケガの防止や安全のためにも重要とし、筋肉や関節のバランス感覚も養っています。遊具も体育遊具を重点に設

置しています。体操を通して、失敗に負けないことを教え、失敗をたくさん経験し、やればできる自信を育てています。「読み・書き」では小学校への進学を見据えて年少でひらがなが読める、名前が書けることを目指して子どもたちは取り組んでいます。

●栽培は、園庭で季節の野菜、花（オクラ・トマト・ナス・枝豆・コスモス等）を栽培し、園児たちで水やりを行い、成長の過程を観察し、収穫した野菜は給食に取り入れる等、食育につなげています。栽培活動により、今まで苦手だった野菜が食べることができるようになり、保護者からも喜ばれています。動物の飼育では、園では動物の飼育は行っていないですが、散歩等により身近な生き物に親しみ、触れ、関心や愛情を育み、命の尊さを知る機会を持つようにしています。

●年齢や発達状況に応じて、子どもが自発的に自由に表現できる環境作りを行い、宮澤賢治の「雨にも負けず…」を暗唱したり、音楽・リトミック・童謡・唱歌を楽しみ、豊富な体育器材でエクササイズを行い、絵や文字のフラッシュカードで遊ぶ等、子どもの潜在能力を刺激し、知育・体力、心身共に色々なことを覚え、経験しています。卒園時には国語辞典をプレゼントしています。

●子ども同士のケンカについては、保育士は危険のないよう見守りながら、子ども同士で解決ができるよう支援しています。職員は常に、公平で温かい態度と言葉遣いを心がけ、互いの話を聞き、相手の気持ちに気付けるよう、自分の立場に置き換えて理解を促し、譲り、労わり合えるよう、年齢に応じた援助を行っています。毎日、朝・夕は異年齢で過ごし、日中の異年齢との活動プログラムにより、年上の子どもと年下の子どもが交流する機会を設けています。

●健康増進については、園では園庭遊びに加え、散歩も積極的に取り入れ、散歩先の公園でも準備運動、片足飛び、持久走、単距離競争等で体力作りを促進しています。さらに、日々のプログラムに体操を組み入れて専門講師の指導により、体力と技量が備わるようチャレンジメニューを設け、子どもたちは楽しみながら、個々の自信にもつながっています。また、健康では、その日の登園の健康状態を把握し、既往歴に配慮して遊びを選択する等、配慮しています。紫外線アレルギー対策としては帽子の着用、肌の弱い子には長袖のシャツを着用する等配慮しています。子どもの既往症については、健康状態に合わせた遊びを工夫するなどしています。

評価分類Ⅱ－１	保育内容〔生活〕
評価	

評価の理由（コメント）

●食事については、0歳と1歳児は、同じ保育室で離乳食用の4人掛けの半円形のテーブルの中心部に保育士が添い、常に子どもと対面しながらグループで食事を取っています。乳児の授乳は、1対1で抱っこをして声をかけながら対応し、離乳食では子どものペースを尊重しています。2歳児は2階の保育室で1グループになって食事を行い、3歳～5歳児は年齢ごとのグループで食事を行っています。保育士は、子ども一人ひとりの摂食量を把握し、完食の喜びを味わえるよう年齢ごとの盛り付けに配慮し、お代わりでは子ども自身で食べられる量を保育士に伝えています。4歳児と5歳児は、各自が盛り付けを行い、ご飯、おかずも自由にお代わりができるようになっており、多くの子どもがお代わりをし、おいしく楽しく食事を取っています。食事とマナーについては、食事前は手洗いを済ませて席に着き、食事テーブルに各自のランチマットを敷いてコップを揃えて置き、当番による食事の準備が整うまで楽しくおしゃべりをして待っています。当番は、消毒液の容器を持って、各テーブル

を巡回し、配膳されたところで当番が食事の挨拶を行います。子どもたちは、立腰姿勢で「お父さん、お母さんありがとうございます。命の恵みに感謝していただきます」と、手を合わせて斉唱し、一斉に食事を行います。おしゃべりに夢中になった場合は、保育士が、決まりの時間に遅れてしまうことや、他の友達にも迷惑がかかることを教え、子どものペースを尊重しながらも食事に集中できるよう目標時間内での食事を促しています。

●献立は、園独自に作成し、毎日、栄養士・調理担当者が各クラスを巡回し、子どもの食事状況を確認し、残食を記録しています。月1回、給食会議を実施し、献立や調理方法について職員と話し合い、検討結果を献立、調理方法等に反映させています。献立表は、保護者へ事前に配付し、子どもにも毎日の献立内容をわかりやすく説明しています。給食の実物は玄関ロビーに展示し、レシピはホワイトボードに記載して伝えています。食器は、子どもの成長に合った箸の長さ、茶碗の大きさ・深さに配慮し、手の大きさを考慮して提供しています。

●食育については、保育士の中から食育担当を決めています。今年は、乳児の担当保育士を選定し、幼児の前に立てよう工夫した結果、調理担当者、乳児担当保育士が、子どもたちの食事の様子を見る機会が持て、全体が把握できる等、有意義な取り組みになっています。食育は月1回実施し、食育でのスナップ写真も年齢別に「取り組み内容の説明」と共に張り出し、保護者へ理解を促しています。

●午睡については、落ち着いて眠れるよう工夫し、室内の採光に配慮して心地良く眠れるよう環境を整えています。保育士がコットの間に座って見守りを行い、うつ伏せ寝防止に留意しています。家庭の状況や子どもの体力、生活リズムを大切にしながら、2歳児は進級に向けて秋頃から睡眠調整に入り、3歳児以上は午睡をなくすようにし、個別対応を行っています。

●献立表は、前月に翌月の献立を作成して保護者へ配付しています。献立表に沿ってアレルギー児の除去するアレルギー食品を保護者と栄養士でチェックを行い、アレルギー児独自の献立表を作成して除去食を提供しています。献立表に作成のポイントを付記し、旬の食材、季節の行事食等も紹介し、レシピも希望があれば提供する等、家庭での食育につなげています。保護者が給食を試食する機会も設けています。

●午睡時間、眠れない子どもについては午睡を強要せず、静かに過ごすよう促し、柔軟に対応しています。乳幼児突然死症候群（SIDS）については、チェック表に沿って安全を確認しています。

●排泄については、個人差を尊重し、保護者と密に連携を取りながら、家庭での状況も把握して子どものリズムに合わせてトイレトレーニングを進めています。スタート時は保護者に伝え、排泄状況を知らせながら成功を共に喜び合っています。排泄に失敗した際は、優しく言葉をかけて、子どもの自尊心、羞恥心に配慮しながら温水シャワーを活用する等、気持ち良く過ごせるように配慮しています。

●保育時間では、子どもに配慮し、午後のおやつは15時過ぎに提供するようにしています。延長保育は、日中とは違った玩具を提供するようにしています。長時間保育については、引継ぎ、情報共有が重要であり、引き継ぎノートを活用し、担任からの伝言は伝達漏れのないよう確実に保護者に伝えられるよう体制を整えています。担任等子どもを担当する保育士と保護者の連携については、ローテーションの調整を図り、必ず直接話をする機会が持てるよう工夫しています。また、保護者会があり、保護者との話し合いについては対応するよう心がけています。

評価分類Ⅱ－２	安全管理〔健康管理〕
評価	

評価の理由（コメント）

- 健康管理のマニュアルがあり、マニュアルに沿って個人別の健康台帳に記載し、子ども一人ひとりについて把握しています。既往症については、入園時の健康記録を基に継続して確認しています。変化がみられた場合は、ミーティングや引継ぎノートにて職員間で共有を図り、主任、園長に報告しています。歯磨きの取行については、1歳児から食事後に歯磨き指導を実施し、子どもは自分の名前が入った歯ブラシを覚え、保育士が仕上げを行っています。
- 定期的に健康診断、歯科健診を実施し、結果は身体測定カード、健康記録ノートに記録し、歯科健診の結果は歯科健診票に記入して保護者に知らせています。必要に応じて口頭でも連絡を行い、嘱託医から助言を得て、伝えています。情報は会議等で共有し、家庭と連携を図り、子どもの健康に配慮しています。
- 感染症等についてマニュアルがあり、感染症登園停止基準、感染症の疑いが生じた場合の対応について、入園のしおり（病気・ケガ・保険関係について）の項を示し、「健康管理マニュアル」に沿って入園説明会時に保護者へ説明しています。感染症が発症した場合は、園内感染拡散の防止を第一に注意喚起を図り、入り口ホールのホワイトボードで告知しています。保育中に発症した場合は、速やかに保護者に連絡し、職員室に子どもを隔離し、お迎えを依頼しています。入り口には「入室禁止札」を掲げ、感染症蔓延に注意しています。地域や最新の感染症情報は、区役所から入手し、情報は職員間で共有を図り、対応策の周知徹底を図っています。保護者に対しては、緊急時のメール配信「戸塚せせらぎ安心メール」への加入を勧め、加入者にはインフルエンザ情報、不審者情報、その他行事のお知らせ等をスマホで受信できるシステムを導入し、活用しています。

評価分類Ⅱ－２	健康管理・衛生管理・安全管理〔衛生管理〕
評価	

評価の理由（コメント）

- 衛生管理について、衛生管理のマニュアルがあり、感染症に関する対応、ノロウイルスに関する対応マニュアルを完備しています。マニュアルに添って園内研修を実施し、処置方法を習得し、各保育室に嘔吐処理セットも設置しています。散歩等から戻って保育室に入る前には必ず、うがいと手洗いを励行し、子どもたちは習慣が身に付いています。各洗面所には手洗いの手順をわかりやすく図で示しています。また、給食時の当番は配膳用エプロンと三角巾を着用し、衛生管理を行っています。

評価分類Ⅱ－２

健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]

評価



評価の理由（コメント）

- 安全管理では、「危険防止マニュアル」を完備し、特にプール活動・水遊びの事故防止マニュアル、保健的対応マニュアル等については個別のマニュアルを完備しています。マニュアルに沿って園内研修を実施し、職員に周知しています。地震対策では棚上からの落下防止をL字金具等で固定し、低い家具を採用して、備品等は安全対策を講じています。緊急連絡網（チャート）は職員室と保育室に掲示し、緊急避難訓練と共に予行演習も実施しています。職員は全員が救急救命法の研修を毎年受講し、また、AEDの使い方も習得して緊急時に備えています。子どもの事故やケガについては、保育中に発生した場合は、直ちに担任または主任が保護者に連絡を行い、記録に残し、職員間で周知を図り、再発防止に努めています。通院が必要なケガや事故の際は、必ず事故報告書に記載し、医師の指示を保護者に伝え、職員は情報漏洩・誤伝達に留意し、必要事項を記録の上、伝えることを徹底しています。
- 外部からの侵入に対しては、玄関入り口に電子錠と防犯カメラを設置し、不審者等の侵入防止策を講じています。保護者には電子カードを配付し、送迎時に提示して入館してもらうようにしています。また、事前に子どもの送迎における保護者の顔写真を登録してもらい、登録のない大人には子どもの引き渡しはできない体制としています。さらに、警察、警備会社に直結したシステムを設備し、安全を確保しています。園では、保護者の事前登録により、不審者情報が発信される「戸塚せせらぎ安心メール」を採用しています。不審者等に対するネットワーク会議に園長が参加し、情報を得ています。戸塚区役所からも情報を入手し、小学校に兄弟児が通っている保護者からの情報は早く、ホットな情報を得ることができています。

評価分類Ⅱ－３

人権の尊重

評価



評価の理由（コメント）

- 人権の尊重は、保育、保育士の基本と心得、子どもに対して威圧的な言葉遣い、強制、自尊心を傷つけるような保育は行っていません。子どもの呼び方は「ちゃん」付けで呼んでいます。また、注意の際も子どもが納得できるように話し、叱る行為は行っていません。園では、「自分の力で自分の人生を切り拓き、人として自立し世のため人のために 尽くす人を育てる」とした教育保育理念と、保育目標の「子どもの可能性を引き伸ばし育てる」に沿い、職員間で共通認識の基、子どもに接しています。
- 他人の視線を意識せず過ごせる場所としては、エレベーター前のコーナーや、各保育室の隅も子どもが一人で過ごせる場所とし、保育士の視線を感じないように配慮しています。プライバシー確保が必要な場合は、職員室や空き保育室を活用しています。
- 個人情報の取り扱いや守秘義務については、マニュアルを備え、職員は、入職時の導入教育で個人情報の取り扱いについて説明を受け、誓約書を提出しています。保護者には、入園説明会にて、入園のしおりで個人情報の取り

扱いについて説明し、同意を得ています。実習生の受け入れの際も守秘義務・個人情報取り扱いについて説明を行い、誓約書を交わしています。子どもの様子は月1回写真を貼り、視覚的に園での様子をお知らせしています。個人情報に関する記録は施錠できる場所に保管、管理しています。

●性差に関する配慮では、体操時には男女に分けて整列することがありますが、遊び、行事時の役割、順番、グループ分け、通常時の整列等では区別はしていません。教材は子ども個々が好みで選択できるようにし、給食や食育時の男子職員の割烹着も女子職員と同じ仕様です。職員は、父親・母親の役割を固定的に捉えた話し方や表現はしないよう心得て保育に当たっています。

評価分類Ⅱ－４	保護者との交流・連携
評価	

評価の理由（コメント）

●園の教育 保育理念、保育目標は、入園説明会時に重要事項説明書、園のしおりを活用して説明を行い、玄関ホール、職員室、各保育室にも掲示しています。また、毎月の園だよりに「今月の目標」を示し、各クラスの子どもの成長と、今後の取り組みを掲載しています。職員は、日々の保育を理解してもらえるよう心がけ、日々理念に基づいた保育の実践に努めています。年度末には、保育目標に沿った子どもの成長過程を個人別に事例を挙げ、報告し合い、振り返りを行っています。

●園生活での様子や活動内容は、0歳～2歳児は個別の連絡ノートで子どもの状況を伝え、3歳～5歳児は日々の活動状況をクラスノートに記載して知らせるようにし、口頭でも伝えていきます。希望者には連絡ノートの運用を行い、送迎時に担任、他職員から子どもの様子が伝えられるようにしています。保護者との連絡、伝達事項は、引き継ぎノートを活用して情報を共有しています。

●個人面談は面談週間を設け、保護者の都合を考慮して日程を決めて実施していますが、個人面談はいつでも気軽に申し出て欲しいことを伝え、必要に応じて随時面談も実施しています。保護者懇談会は年1回行っています。保護者の相談については、職員室を利用し、入り口に面談中を表記してプライバシーを確保できるように配慮しています。相談は担当保育士が対応し、他の職員とも連携をして適切な対応ができるようにしています。相談内容は記録し、継続的にフォローをするよう努めています。

●園だよりは毎月発行し、クラスごとに活動の様子が分かるよう写真を掲示しています。その日の様子はクラスごとにノートに記載して閲覧できるようにし、写真の掲示はデジタルフォトフレームで行っています。園だよりの他、行事前には行事の見どころについて配付をしたり、クラスノートでも保育の内容を伝えていきます。

●保護者の保育参加・参観については、年間行事予定を配付し、保護者が予定を立てやすいように配慮し、積極的に受け入れています。園長、保育士は、保護者とのコミュニケーションに努め、意見交換がしやすい雰囲気作りを心がけています。保育参観の内容はクラス便りに掲載して伝えていきます。保育参加・参観時に参加できなかった保護者も、希望に応じて受け入れを歓迎しています。

●保護者の自主的組織は現状、保護者から希望や要請を受けていないので設けていません。保護者からの要請では、卒園のアルバムを作るので写真を撮りたいというケースでは了解はしていますが、冊子にする前に確認させてもらっています。卒園の謝恩会で保育室を会場に提供した際には、園長や主任も謝恩会に招待を受けて出席しています。外部の集まりには原則として出席していません。

評価分類Ⅲ－１	地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供
評価	

評価の理由（コメント）

- 地域住民との交流では、町内会に加入し、地域の一員として地域の情報等を得、地域のニーズの把握につなげています。また、教育 保育理念、体操等の指導を通じて習得した礼節、足を揃えての挨拶等、園の子どもの礼儀正しさは類を見ない特徴であり、見学希望者も多く、地域の受け入れの一環として対応しています。
- 地域の子育て支援では、関係機関の研究会に参加し、園長は地域園長交流会に出席し、地域のニーズに即した活動を実施しています。園庭開放、交流保育、発表会、子育てフェスティバルへのパネル展示等、地域との交流を通じて地域の子育て支援ニーズを把握しています。園では、住民への子育て保育の講習やコンサルティングを実施しています。今後、定期的な育児相談や、一時保育の預かり等、地域の子育て親子に向けた取り組み等を期待しています。

評価分類Ⅲ－２	保育園の専門性を生かした相談機能
評価	

評価の理由（コメント）

- 地域住民に対する園の情報提供では、戸塚区の子育て情報サイト、広報よこはま戸塚区版等に掲載して情報提供しています。育児相談については、園見学者等の希望に応じて担当職員が対応しています。また、園の情報提供の１つとして、子どもの体操の成果発表会には小学校の体育館や保土ヶ谷区の岩間市民プラザを利用して行い、保護者や地域の方々に参加を促しています。園の前にある町内会の掲示板には園の行事案内を貼らせてもらっています。
- 関係機関・団体との連携では、戸塚区役所こども家庭支援課と連携を図り、戸塚区のケースワーカーの巡回を受け、相談・助言を得られる関係を構築しています。その他、リスト化した地域団体等は地域民生委員、横浜市戸塚地域療育センター等、連携を密に保ち、対応できる体制を整えています。

評価分類Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ

評価



評価の理由（コメント）

- 地域への園の理解促進の取り組みとしては、子どもの体操の成果発表会の開催や、運動会に卒園児・家族等を招待して参加してもらい、園の理解を促す機会につなげています。地域との交流では、散歩時に行き交う地域の方々に声をかけてもらったり、大きな声で元気よく挨拶を交わし、地域の方と交流をしています。自治会から行事のお祭りの案内をもらい、子ども・保護者と一緒に参加しています。園行事の案内は、自治会の協力によりポスターの貼り出し許可をもらい、町内告知を行っています。自治会、学校、見学の受け入れ、交流保育など近隣との友好的な関係を築くための取り組みを行っています。
- 子どもと地域との交流で、地域の文化・レクリエーション施設等を利用では、戸塚図書館等の利用、運動会では東戸塚小学校の協力を得て運動場を借用して実施し、体操発表会では小学校の体育館で成果発表会を行っています。小学校とは積極的に連携を図り、近隣の中学の体験学習の希望を聞き、職業体験の受け入れを行っています。区域内小学校の運動会では、プログラムの新入予定者の種目に卒園予定者として参加し、交流を図っています。

評価分類Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供

評価



評価の理由（コメント）

- 園のサービス内容・保育方針などの情報提供は、園のホームページ、パンフレットに園の保育教育理念に基づく活動内容を紹介しています。パンフレットは戸塚区役所にも設置し、入手を可能にしています。また、入園のしおりには園の具体的な内容の詳細を掲載し、入園説明会で提供しています。外部の情報提供媒体では戸塚区の保育園広報誌、横浜市の「ヨコマはびねずぽっと」等に園の紹介をしています。園見学者や来園者には、必要な園の情報を提供しています。
- 利用希望者の園見学に関する情報は、戸塚区の案内で周知され、利用者の問合せの対応は園長、主任が行っています。園見学希望者の希望に添える日程調整については、園活動に支障のない範囲で希望者の都合に合わせて対応し、多い日には１日２０人程の受け入れを行い、年間におよそ１００人以上の園見学者の受け入れを行っています。

評価分類Ⅳ－３	ボランティア・実習の受け入れ
評価	

評価の理由（コメント）

- ボランティアの受け入れは、窓口担当や必要な手続きのマニュアルも完備していますが、現在、園方針によりボランティアの受け入れは実施していません。今後、近隣の中学生の体験学習・高校生のインターンシップの受け入れを検討しています。
- 実習生の受け入れに関しては、保護者に入園説明会で説明し、入るクラスには担任や保護者や子どもたちにも実習生を紹介しています。受け入れは主任が担当しています。毎日のクラス担任との振り返りや反省会などで、職員と実習生は意見を交換しています。実習前にはオリエンテーションを行い、実習の目的や意向を聞き、実習がより良いものになるような働きかけを行っています。実習終了後には、反省会を持ち、保育の参考にしています。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類Ⅴ－１	職員の人材育成
評価	

評価の理由（コメント）

- 必要な人材の採用については、法人で保育所運営に必要な人材構成、要員を把握し、関連の保育園との人的交流も併せて人材確保に努めています。人材の補充については、十分な人材構成であるかを検討し、必要があれば補充を行う体制で運営しています。現在、入所児童数（０歳児６名、１歳児１２名、２歳児１５名、３歳児１５名、４歳児１６名、５歳児１６名）の計８０名を、職員数２２名で安全に保育に当たり、必要人員を確保しています。
- 職員、非常勤職員の研修体制については、人材育成計画に伴う研修計画を策定し、新人導入研修では、理念・方針・倫理等をマニュアルに沿い、園長、主任が指導しています。また、園外研修、他の福祉施設での実地研修に参加し、研修受講後は、会議等で報告を行い、全職員で専門技術、知識を共有し、保育に生かしています。園内研修も実施して研修成果を保育の実践につなげ、資質向上に努めています。
- 非常勤職員の配置や業務内容については、非常勤職員も正規職員と同じ姿勢で職務にあたり、指導については、担当者を定め、資質向上への取り組みを行っています。実務に当たっては実務年数等を考慮し、正規職員との組み合わせに配慮しています。また、業務マニュアル、必要ファイルを閲覧できるようにし、必要情報・知識の共有を図っています。園長は、非常勤職員・職員間のコミュニケーションを図りながら円滑に保育を進めています。

評価分類V-2	職員の技術の向上
評価	

評価の理由（コメント）

- 保育士の自己評価は、毎日の保育日誌、月案・年間指導計画・個別指導計画に照らし合わせて振り返りにより実施しています。また、毎日の昼礼を通して諸連絡と共に、職員の日々の気付きや反省、改善等を勉強会につなげ、職員の技術向上に努めています。保育の技術評価では、必要に応じて、コスモススポーツクラブ専門員による体操指導と併せて評価を受け、外部の幼児活動研究会株式会社からコンサルティングも受けています。園長は、法人系列園長から推薦を受け、法人本部からサービス向上を目指した保育指導の評価として表彰を授与されています。
- 保育士の自己評価は、目標の成果として面接を通じて確認し、目標とねらい、子どもの成長の様子を重視して実施しています。職員一人ひとりが振り返りを通して自己の実践を評価し、改善やその後の計画作成に反映させています。
- 保育士の自己評価の内、保育園としての課題を抽出して話し合い、保育所としての課題を明らかにし、改善に取り組んでいます。保育所の自己評価については、法人本部の意向にて昨年度に続き今年度も第三者評価を受審し、園の課題、改善に向けて取り組み、次期につなげていくよう研鑽を図っています。第三者評価は毎年公表されています。

評価分類V-3	職員のモチベーションの維持
評価	

評価の理由（コメント）

- 職員は、自己管理目標に取り組み、園長と面談を行い、指導・助言を受けて目標を定めています。取り組み姿勢として、「子ども一人ひとりの成長過程を重視し、保育目標の子どもの可能性を引き出し育てる。」「人間としての基本を身に付ける。」を示し、各職員の資質向上の達成が、園のサービスの資質向上につながるよう、自己啓発に取り組んでいます。また、園長は、個々の希望、意向を吸い上げ、より良い園・職場環境作りに努め、職員のやる気につなげるよう指導力を発揮しています。
- 経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準は、社会福祉法人大和まほろば福祉会の就業規則等に明文化されています。正規職員に対しては、年2回人事考課面談を実施し、アルバイト、嘱託職員に対しては年1回面談を行い、意向や意見を聞き、改善に努めています。小さな事例でも全職員で共有し、チーム保育を意識して保育を行っています。園長は、クラス内の職員間のチームワークに配慮し、チーム保育体制では出来る限りの権限移譲を行い、責任を明確にした上で、情報共有とコミュニケーションを心がけることを面談で伝えています。また、個別の面談で職員の満足度・要望等を把握し、働きやすい職場環境に努めています。

評価分類VI-1 経営における社会的責任

評価



評価の理由（コメント）

- 職員の守るべき法・規範・倫理等は、就業規則・服務規定に明示し、職員は守るべき倫理を遵守しています。リスクマネジメント・コンプライアンスについては、他施設で発生した不正・不適切な事案、事故事例等の情報を、昼礼時に取り上げて周知し、他人事とせず、我が身に置き換え、事例の発生日等全職員で考える機会を設け、意識して行動するよう周知し、守るべき規範について再確認しています。
- 職務分掌については階層別、職格別のヒエラルキーの他に業務分担表による責任体制が明確になっており、また、社会福祉法人であり、事業計画、事業報告は公表され、公認会計士等の内部監査も行われています。
- 環境整備では、横浜市の条例に基づきゴミ減量化や、リサイクルに取り組んでいます。ゴミは分別収集管理を行い、省エネルギーの促進では、節電・節水を心がけ、トイレの照明、階段踊り場の照明等を自動点灯・消灯にし、水道蛇口はきちんと閉めることを子どもにも説明して全体で励行しています。園庭で花や野菜の栽培、プランターでヘチマを栽培する等、緑化促進を行っています。園では、園内外共にゴミ拾いや安全確認をしてから子どもたちが安全に遊べるようにしています。クラスの名前（夢、星、風、虹、光、空）に自然の名前を付け、札幌郊外（法人本部の所在）の自然を念頭に地球の自然を守る気持ちが示されています。横浜市環境方針に沿い、グリーン購入法に記載されている再生紙の購入なども行っています。裏紙を活用し、エアコンや電源をこまめに切るようにし、物品購入時には、グリーン購入のものを取り入れ、ゴミの分別も実施しています。

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等

評価



評価の理由（コメント）

- 園の教育 保育理念、保育目標は、明文化し、園内に掲示して示しています。保護者に対しては、園のしおりに明示し、入園説明会で園のしおりに沿って説明しています。また、園見学者にも法人理念・保育目標が明示されたパンフレットを手渡し、周知しています。職員に対しては、入職時の導入教育研修で理解をし、職員室、園内に理念、方針を掲示して啓発し、職員面談を通して理解度を確認し、理念が保育で反映されるよう、意識統一に努めています。
- 重要な意思決定については、クラス懇談会で保護者の意見を聞き、職員間で継続して検討を行い、行事後のアンケートから保護者の意見を把握し、決定後、園だよりで報告しています。園長は、保護者の情報や意見収集に努め、主任、クラス担任と連携を図り、職員の役割分担により実行を推進し、保育課題の解決に指導力を発揮し、園運営に尽力しています。

● スーパーバイズのできる主任クラスの育成では、園長は、職員育成ビジョンに沿った法人主催の主任研修に参加を促し、外部研修での希望する受講への支援を行い、園全体を把握する主任の育成に努めています。主任は、職員の状況を考慮してシフトを作成し、フリー職員の活用による担任の業務状況を把握し、必要に応じて支援手当を行っています。また、職員一人ひとりの精神面、肉体系面に配慮し、個々の能力や経験に応じて助言や指導を行い、園長補佐として円滑な業務に向けて尽力しています。

評価分類VI- 3	効率的な運営
評価	

評価の理由（コメント）

● 園長は、事業運営面に影響のある情報に関して、各職員が情報を収集し、主任と共に公式・非公式に精査して検討の上、周知すべき内容について課題として投げかけ、職員間で話し合い、園全体で取り組んでいます。また、戸塚区の園長会議、幼保小連絡会、法人本部から得た事故情報等について、経営層の意向・情報と共に特に、事故等の情報について職員会議で周知徹底を図り、園の現体制を見直し、改善すべき点を見極め、安定した園運営に努めています。

● 中・長期的計画については、短期（1～3年）、中期（3～6年）、長期（6年～）の事業計画を、経営・保育事業、人材育成の面を長期展望に据え、子どもの幸せと組織の発展を踏まえて策定しています。園長は、横浜市の事業者説明会に出席し、運営に関する必要情報を職員に伝え、共有認識を図っています。外部のアドバイスでは、幼児活動研究会株式会社・コスモスポーツクラブ専門員による評価を受け、保育のコンサルティングを受けて研鑽を図り、より良い園運営に尽力しています。

平成 30 年度 福祉サービス第三者評価 本人（園児）調査結果報告書

戸塚せせらぎ保育園

調査日程	平成 31 年 1 月 8 日・9 日
保育観察	保育園を調査者 2 名で訪問し、生活環境、全クラスの視察を行いました。午睡の様子と保育観察を継続する中、園外活動での散歩に同行し、遊び・体操の観察をし、保育士のかかわり方、園児の様子の観察を行いました。各年齢の子どもの 1 日の保育の観察を通してそれぞれの特徴を捉えて記しています。

<0 歳～5 歳児の子どもの様子>

【0 歳～2 歳児】

乳児保育室は 0 歳児室を設け、1 歳児の保育室では保育サークルと玩具が入った低いカウンターで保育室内を仕切り、活動できるよう工夫をしています。遊びの時は 1 歳児の保育室のスペースで 0 歳児も一緒に遊びます。当日、0 歳児（夢組）6 名と 1 歳児（星組）12 名の子どもたちが遊んでいる様子を視察しました。保育士に抱っこされている子どもや、お友だちと保育室内を行ったり来たりして自由に過ごし、玩具遊びより、かけっこや体を動かすことの方が面白いようで表情ものびやかです。調査者が窓から覗いているのを子どもが見つめ、笑顔で何か言いながら指をさしています。目が合うと保育士の背中に隠れる子どももいましたが、保育室内に入れていただくと、様子を窺いながらも興味を示して 1 歳児の子どもが声を上げて駆け寄って来てくれ、手をつないでくれました。調査者の首からかかっている名札に付いている小さなミッキーマウスを見つけ、「ミッキー」と言って興味を示し、他の子どもも同じように 1 歳児がすることをを見て指を差します。人懐っこく、好奇心も旺盛です。

午睡と着替えでは、午睡は、夢組、星組のそれぞれの部屋にコットを置き、その上にタオルを敷いて眠ります。園では 3 歳児からは午睡はなくすようにし、学校生活を長期的に見据えて 2 歳児も 3 歳児に向けて徐々に午睡を減らしていきます。今日は、2 歳児の 2～3 人位が食事を終えて 2 階から階段を下りて来て、1 歳児の子どもたちと一緒に眠ります。0 歳児は既に夢組のスペースで眠りについていました。星組でも殆どの子どもが眠り、少数の子どもが未だ眠れないようで保育士の優しい「トントン」で安心して眠りにつきます。午睡後は、0 歳児は保育士によって手際良く着替えが行われ、1 歳児は自分でお着替えを始め、個々のペースで格闘しながらも、どの子どもも前後、裏表を間違いもなく着替えています。2 歳児は、自分の着替えが入った袋を取り出して慣れたように着替えています。中ではおにきさん、おねえさんに見えます。まだ眠いのかコットの上で半分眠っている子どももいて、やがて、「トイレに行こう」と保育士に声をかけられて眠そうな顔をしながらトイレに行き、戻って来て着替えを始め、全員が着替え終わると今度は歯磨きをして、そしておやつ時間を迎えます。0 歳児から穏やか中にも基本的な生活習慣に規律を持ちながら生活を進め、子どもたちは自然に学んでいます。

<朝の会>

【2 歳】

園の方針は体操を中心とし、子どもに礼節と運動を教え、読み、書き、体操、音楽を中心に「体育」を通してきちんとした子どもの教育をしていることで園の名声を発しています。体操はコスモスポーツクラブ（幼児活動研究会株式会社）の指導を受け、子どもたちは紺色のジャンパーに白のコスモと記されたトレーニングシャツを全員が着用しています。そうした環境の中で正し

い規律で行われる朝の会を見学しました。2階に上がると既に、2歳児の朝の会が始まっていました。1人のリーダーがみんなの前に出て号令をかけています。保育士に向かって一礼をしてから出欠を取ります。リーダーが子どもの名前を呼ぶと呼ばれたこどもは大きな声で「ハイ！」と返事をして手を挙げます。挙げた手が少し曲がって真っ直ぐ伸びきっていない子どもには保育士がそっと手を持って直してあげています。園の園歌は童謡の「故郷」であり、国歌「君が代」も歌い、時間がずれて2歳児の朝の会では拝聴できませんでしたが、翌日の午後に保育士の指揮で子どもたちが歌っているのを聞かせてもらいました。隣の保育室では3歳～5歳児の異年齢児で朝の会を行っています。本来は3歳～5歳児の保育室の可動式間仕切りを外してホールにして実施されますが、第三者評価で5歳児の部屋を使用していた為、子どもたちの朝の会を少し狭い思いをさせてしまいました。礼節を大切にする環境は、子どもたちの将来に大きく役立ち、挨拶一つ々の小事が大事となり、個々のスキルに積み重ねられ、リーダーを備える人間性へもつながっていくと思います。

<戸外活動>

【4歳児・5歳児】

午前中、5歳児と4歳児の子どもたちが一緒に「電車が見える公園」の少し先にある「矢部東公園」に散歩に出かけました。玄関で、4歳児は右側5歳児が左側にして縦2列に並び、手をつないで2人1組になり、前から順に声を上げて点呼を行います。イチ、ニイ、サン、・・・と順に子どもたちが声を上げ、13組です。おかしい！もう一度点呼を行うと、今度は14組28人全員が揃いました。子どもが自分で点呼に倣うのは珍しい光景ですが、保育園として素晴らしい教育です。さあ、出発です。歩道を歩く途中、保育士から「自転車が来ます」の合図で全員が端に寄って止まります。交差点に来ると、1人の保育士が後ろから走ってきて交差する道路の真ん中に立ち、両手を広げて立ち「ハーイ、良く左右を見て！」と声をかけると、子ども達は止まって「右・左・前・後」と声を出して指さし確認をしながら1組ずつ保育士のかけ声と共に手を上げて渡ります。男性の保育士を先頭に、子どもたちは張り切って喜々として歩いています。28人の子どもの誘導に2名の保育士での散歩は大変では、と思っていましたが子どもたちはきちんと戸外活動の教えを教育されており、歩き方もだらだらと歩かず、整然と歩き、早い！調査者はついて行くのがやっとです。公園は東海道の線路に沿って作られた長方形の「矢部東公園」です。既に他の園の子どもたちが来て遊んでいます。保育士が滑り台のところに先導し、公園内で遊ぶ範囲と遊具の使用等の注意を行います。「滑り台はOK、鉄棒OK、ブランコはダメ」とわかりやすく説明をして子どもたちに注意を促します。公園は幅20メートル程で、長手方向には100m程あります。遊びのスタート前に準備運動を行い、ジャンプ、ケンケン飛びを行った後に自由遊びを始めます。子どもたちは、それぞれ走って滑り台に駆け寄って滑る始める子どもや、滑り台の下で遊ぶ子ども、鉄棒で遊ぶ子ども等、思い思いにのびのびと遊んでいます。滑り台では、1歳くらいの子どものとお母さんが遊んでおり、お母さんが遠慮して子どもを滑り台から下ろそうとすると、5歳児の子どもが、その子どものところに行って「一緒に遊ぼう」と手をつないで誘いました。その子どもは嬉しそうに付いて行くと、お母さんが「ありがとう」と言って遠慮している光景を見、戸塚せせらぎ保育園児の優しい心遣いに感心させられました。しばらくすると、保育士がみんなを呼び集め、説明を受けて公園の外に向かいます。線路との間の通路に集まり、子どもたちは上着を脱いでキチンと畳んでいます。白のコスモとネームの入ったウエアで2人ずつが走ります。スタート地点にストップウォッチを持って1人の保育士が立ち、ゴールには男性の保育士が立って「ヨーイ・ドン！」で勝ち抜き戦の50メートル走が始まります。足の速い子どもにはハンディ付けをして、1～2メートル離れた位置からのスタートです。みんな気合を入れて手を大きく振って、足を高く上げ前傾姿勢で本気で走ります。走り終えた後は、「勝った人・負けた人」のグループに分かれて、さらに走り順位を決めていくトーナメントを行い、最後に残った2名での決勝戦が終わるまでに子どもたちは50メートル走を1人6回～7回ぐらいは全力で走っています。あまりにも速い走りに、他園の保育士が子どもたちと一緒に見

学していて思わず「速い〜!」、「すごい!!」と驚いていました。公園では、戸塚せせらぎ保育園の紺色のジャンパー、園児の集合姿勢、整列での整然とした動き方は他園の子どもたちの中で際立っていました。今日の順位も決まり、みんな上着を着て程よく疲れたところで園に戻ります。帰りも、あれだけ走ったのに向かう時と同じく整然と歩いている姿勢に敬服します。園に到着すると、年齢ごとに園内に入り、組ごとに事務室の園長先生に一礼をして「帰りました」と大きな声で報告をして入室していきます。入室をすると直ぐに手洗いをし、トイレを済ませます。挨拶・礼節をわきまえ、爽やかな4歳児、5歳児によるトレーニングを兼ねたお散歩に、清々しさを子どもたちから覚えました。

<エクササイズ>

【2歳～5歳児】

2歳児～5歳児の異年齢交流で、3歳児の保育室と4歳児の保育室のバーテーションを開放して1つの大きな部屋にして「自転車レース」を見学しました。レースの自転車は、ペダルのない足で地面を蹴って走るもので、小さな2歳児でも跨いで地面を蹴るだけでペダルを漕ぐ必要がなく、自転車を漕げない子どもも操作ができます。これに慣れれば自転車にも乗れるようになるのではと、戸塚せせらぎ保育園の考えられた取り組みだと感心しました。通常、自転車の練習には親たちも苦勞するものですが、この自転車に乗る感覚を掴んでいれば通常の自転車を乗り熟せるのに時間はかからないことでしょう。レースは、赤・黄・青の3台の自転車で競争します。1組5名で2歳～5歳まで混合でグループ分けをして行います。保育士が前でスタートの合図を行い、スタート位置から約5m前方に置かれたマーカーを廻って次の人にバトンタッチします。その際は自転車をキチンと横にして、次走者に渡します。みんな真剣に競います。レースは走り方を工夫していかに速く走れるかを子ども自身が覚え、お尻をサドルに置いて床を一気に蹴りながら車輪に身体を乗せて走るコツを駆使して走る子どももいますが、グループ制ですから様々な走りがあり、真剣にグループで応援をします。グループの5歳児（リーダー）が作戦を練って走り順を決めて乗り方のアドバイスをしている等、協調性、チームワーク、リーダー育成につながり、素晴らしい取り組みです。決着がつくと、ゴールした順に順位を付けて保育士からそれぞれ何位かを発表します。優勝が決まると「ワー!!」と歓声上がり、競争の厳しさ（競争原理）を身に付け、負ければ悔しがり、勝てばみんなて喜ぶことを体験しています。戸塚せせらぎ保育園では、競争では1番があると最下位もあり、「悔しかったら頑張ろう」が、子どもの精神力・体力を大きく向上させています。

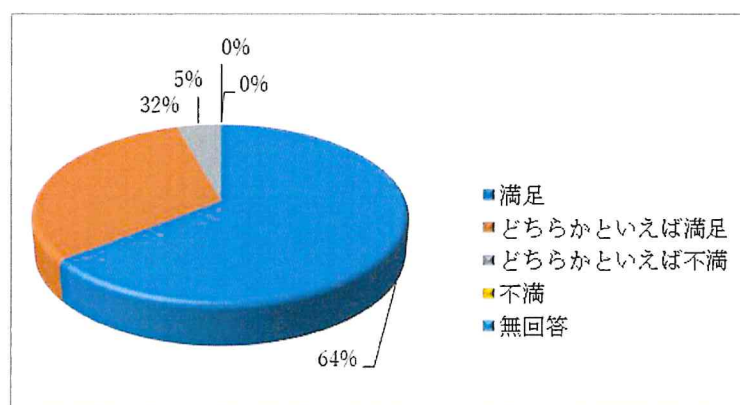
【戸塚せせらぎ保育園 利用者アンケートの特徴】

実施年度 / 評価項目手法	30 年度 / 横浜市版
アンケート調査対象	利用者家族 配付世帯数（世帯数 64）
有効回答数	45 世帯
世帯総数に対する回答者割合（％）	70％

0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
5 世帯	11 世帯	10 世帯	8 世帯	5 世帯	4 世帯

未記入 2 世帯

* 回答があった利用者満足度の内訳（％）



●利用者アンケートの特徴として、日常の保育内容について「生活」についての評価が総体的に高く、『満足』が高い項目では、「基本的生活習慣の自立に向けての取り組み」については、『満足』は80％を得ています。『満足』と『どちらかといえば満足』を合わせて（以下、ほぼ満足という）を見ると、中でも「遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組み」、「基本的生活習慣の自立に向けての取り組み」、「施設設備」についての3項目は、「ほぼ満足」は98％であり、「開所時間であれば柔軟に対応してくれる等、残業等で迎えが遅くなる場合の対応」については、「ほぼ満足」は97％を示しています。さらに、「入園前の見学や説明など、園からの情報提供」、「園の目標や方針についての説明」、「年間の保育や行事についての説明」、「クラスの活動や遊び」、「遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分持てているか」、「給食の献立内容」、「お子さんが落ちついて過ごせる雰囲気になっているか」、「あなたのお子さんが大切にされているか」についての8項目は、「ほぼ満足」では96％を得ています。その他の項目についても、「ほぼ満足」に関しては高い評価を得られています。

●アンケートの自由記述からは、各年齢の保護者から「先生（保育士）方も時に厳しく、時に優しく、メリハリがあるように感じます」、「先生（保育士）たちは、みんな元気でとても良くしてくれる」、「いつも一生懸命に保育してくれ、愛のある指導に感謝している」、「運動を多くやっていて、子どもの体力が上がっていることに感謝している」等、園の方針に沿った保育を理解し、喜びと満足度の高い意見が挙がっています。

●『不満』および、『満足』が比較的低い項目では、「送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換」についてが『不満』7%と中でも比較的に高い%として挙げられます。『満足』での比較的低い項目では、「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会」についてが、挙げられ、アンケートの「その他」欄でも個人面談の要望が記載されています。

●アンケートからは、「子どもの様子をしっかりと伝えてほしい」、「土曜日等、女性職員が2名しかいないのに玄関を開けっぱなしはどうなのか」、「給食の試食会をしてほしい」、「参観の機会を年2回程度に増やしてほしい」等の意見が挙がっています。それぞれに関しては園から説明、周知をされていると思いますが、保護者からの意見、要望等について、要望等の理由の検討および振り返りを行い、利用者の理解や協力につなげられるよう、改善・工夫に努め、継続してより良い園作りへの取り組みを期待いたしております。

●保育園の基本理念や基本方針についてでは、よく知っているが22%、まあ知っている67%、どちらともいえない4%、あまり知らない7%という結果になっています。しかし、それらの賛同については、賛同できる51%、まあ賛同できる33%、どちらともいえない4%、無回答11%にて、84%がほぼ賛同を示しています。保護者は日々の保育への理解と、子どもの成長の喜びを示していますが、確たる戸塚せせらぎ保育園の理念、保育方針について、さらに周知を促し、賛同の%が上がっていくことを期待しております。

●総合的に、『満足』は64%の支持を頂き、『どちらかといえば満足』は32%、『どちらかといえば不満』は5%にて、サービスの提供について、95%が「ほぼ満足」と捉えることができます。

調査結果

■保育園の基本理念や基本方針について

問1 あなたは、この園の保育目標・ 保育方針をご存知ですか (人)	よく知って いる	まあ知って いる	どちらとも いえない	あまり知ら ない	まったく 知らない	無回答
(%)	10	30	2	3	0	0
	22%	67%	4%	7%	0%	0%



付問1 あなたは、その保育目標や保育 方針は賛同できるもの (人)	賛同できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同でき ない	無回答
(%)	23	15	2	0	0	5
	51%	33%	4%	0%	0%	11%

■保育園のサービス内容について

問2 入園する時の状況について

	満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
問2-1 見学の受け入れについては	29	12	0	0	2	2
	64%	27%	0%	0%	4%	4%
問2-2 入園前の見学や説明など、園 からの情報提供については	25	18	0	0	0	2
	56%	40%	0%	0%	0%	4%
問2-3 園の目標や方針についての 説明には	25	18	0	0	0	2
	56%	40%	0%	0%	0%	4%
問2-4 入園時の面接などで、お子さん の様子や生育歴などを聞く対応 については	24	16	2	1	0	2
	53%	36%	4%	2%	0%	4%

問2-5 保育園での1日の過ごし方についての説明には	24	18	1	0	0	2
	53%	40%	2%	0%	0%	4%
問2-6 費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかを含めて)	21	20	2	0	0	2
	47%	44%	4%	0%	0%	4%

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
問3-1 年間の保育や行事についての説明には	17	26	2	0	0	0
	38%	58%	4%	0%	0%	0%
問3-2 年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	10	25	4	1	5	0
	22%	56%	9%	2%	11%	0%

問4 日常の保育内容について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
「遊び」について 問4-1 クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	25	18	1	1	0	0
	56%	40%	2%	2%	0%	0%

問4-2 子どもが戸外遊びを十分 しているかについては	32	11	1	0	1	0
	71%	24%	2%	0%	2%	0%
問4-3 園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように 置いてあるか、年齢にふさわし いかなど)	22	20	2	1	0	0
	49%	44%	4%	2%	0%	0%
問4-4 自然に触れたり地域に関わる などの、園外活動については	21	19	3	1	1	0
	47%	42%	7%	2%	2%	0%
問4-5 遊びを通じて友だちや保育者との 関わりが十分もっているかにつ いては	22	21	1	1	0	0
	49%	47%	2%	2%	0%	0%
問4-6 遊びを通じたお子さんの健康 づくりへの取り組みについては	32	12	1	0	0	0
	71%	27%	2%	0%	0%	0%

「生活」について

	満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
問4-7 給食の献立内容については	22	21	2	0	0	0
	49%	47%	4%	0%	0%	0%

問4-8 お子さんが給食を楽しんでいるかについては	23	19	3	0	0	0
	51%	42%	7%	0%	0%	0%
問4-9 基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	36	8	1	0	0	0
	80%	18%	2%	0%	0%	0%
問4-10 昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	24	19	1	0	1	0
	53%	42%	2%	0%	2%	0%
問4-11 おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	31	11	0	0	3	0
	69%	24%	0%	0%	7%	0%
問4-12 お子さんの体調への気配りについては	23	18	3	1	0	0
	51%	40%	7%	2%	0%	0%
問4-13 保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	21	12	8	1	3	0
	47%	27%	18%	2%	7%	0%

問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
問5-1 施設設備については	23	21	0	0	0	1
	51%	47%	0%	0%	0%	2%
問5-2 お子さんが落ちついて過ごせる雰囲気になっているかについては	21	22	1	1	0	0
	47%	49%	2%	2%	0%	0%
問5-3 外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	17	18	7	2	1	0
	38%	40%	16%	4%	2%	0%
問5-4 感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	24	17	4	0	0	0
	53%	38%	9%	0%	0%	0%

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
問6-1 保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	5	26	8	2	2	2
	11%	58%	18%	4%	4%	4%
問6-2 園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	26	14	3	0	1	1
	58%	31%	7%	0%	2%	2%

問6-3 園の行事の開催日や時間帯への配慮については	24	15	3	2	1	0
	53%	33%	7%	4%	2%	0%
問6-4 送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	10	22	10	3	0	0
	22%	49%	22%	7%	0%	0%
問6-5 お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	14	23	6	2	0	0
	31%	51%	13%	4%	0%	0%
問6-6 保護者からの相談事への対応には	13	25	4	2	1	0
	29%	56%	9%	4%	2%	0%
問6-7 開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	33	11	1	0	0	0
	73%	24%	2%	0%	0%	0%

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
問7-1	26	17	1	0	1	0
	58%	38%	2%	0%	2%	0%
あなたのお子さんが大切に されているかについては						
問7-2	27	15	2	1	0	0
	60%	33%	4%	2%	0%	0%
あなたのお子さんが保育園 生活を楽しんでいるかにつ いては						
問7-3	23	15	1	0	4	2
	51%	33%	2%	0%	9%	4%
アレルギーのあるお子さんや 障害のあるお子さんへの配慮 については						
問7-4	21	19	2	1	1	1
	47%	42%	4%	2%	2%	2%
話しやすい雰囲気、態度で あるかどうかについては						
問7-5	17	22	4	1	1	0
	38%	49%	9%	2%	2%	0%
意見や要望への対応 については						

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
問8	29	14	2	0	0
	64%	32%	4%	0%	0%
総合満足度は					

事業者コメント

施設名： 戸塚せせらぎ保育園

施設長： 佐藤 美佳

<評価に取り組んだ感想>

今年度もお世話になりました。昨年度同様に、園のことをよく見ていただき、良い面を知ってくださった上で更に、良くなるための課題につなげて話をしていただけたことが何よりも勉強になりました。

<評価後取り組んだ事として>

1. 次年度の入園のしおり、入園説明会を通して園の保育方針が保護者により伝わるよう、詳しく話をしました。
2. 職員会議等で職員一人ひとりが発言する機会（ディスカッション）を作りました。
保育に対しての考え方や、改めて何のために教育をしているか等、話し合うことでより深く考えるきっかけになりました。